

新興国レポート

アジア経済成長率 据え置き

引き続き堅調推移 貿易摩擦の影響は限定的

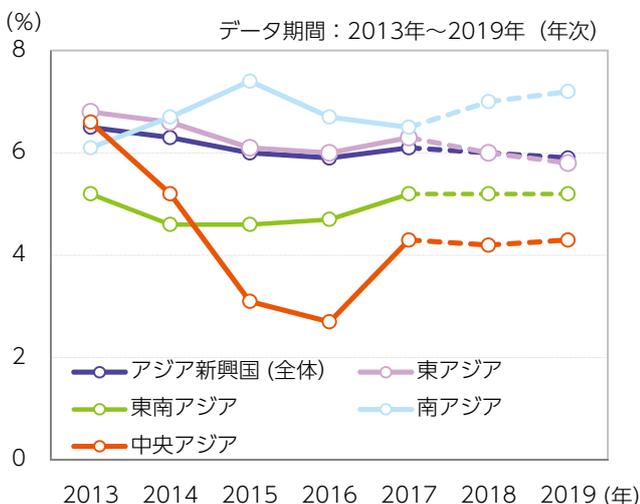
- ✓ アジア開発銀行は2018年の経済成長見通しについて、4月に公表した6.0%のまま据え置くと発表。
- ✓ 米中貿易摩擦による世界的な緊張感は懸念するも、地域全体としては堅調推移を予想。
- ✓ 保護主義的な政策が拡大すれば消費者や企業マインドの低下から、成長率を押し下げる可能性も。

アジア開発銀行（ADB）は7月19日、2018年のアジア新興国の経済成長見通しについて、4月に公表した6.0%のまま据え置くと発表しました。国・地域別では香港やタイなどが引き上げられ、また米中貿易摩擦により世界中の国々で緊張感は増しているものの、地域全体として堅調な伸びが期待されました。2019年の成長率も従来予想と同じ5.9%に据え置きました（図表1、2）。

- ✓ 東アジアは、香港、台湾等で回復が見られたものの、見通しは前回から据え置き。2018年が6.0%、2019年が5.8%。中国は対米貿易摩擦を背景としたリスクについて言及したものの、当初見通しを達成するとし、2018年は6.6%、2019年は6.4%の成長を予想（図表2）。
- ✓ 南アジアは、インドの堅調な経済がけん引し、引き続きアジアで最も高い成長を見込む。インドは銀行制度の強化や税制改革などの投資促進政策を行い、2018年は引き続き7.3%の成長を確保し、2019年は7.6%と更なる成長を予想（図表2）。
- ✓ 中央アジアは、2018年が4.0%から4.2%に、2019年が4.2%から4.3%に上方修正。原油をはじめとする世界的な商品価格の上昇と、それを受けたロシアの経済回復が後押し（図表1）。

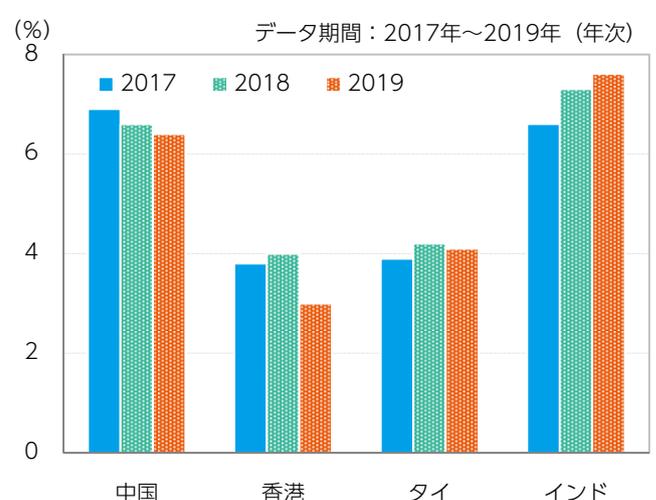
ADBは、米国による対中制裁関税などの貿易摩擦の影響は成長率に織り込み済みであると説明したうえで、「保護主義的な政策が拡大すれば消費者や企業のマインドが悪化し、成長率を押し下げる可能性がある」としています。

図表1：アジア新興国経済は堅調推移が見込まれる



※アジア地域の経済成長率予測推移（前年比）
※2018、2019年はアジア開発銀行の予測値

図表2：インドは引き続き高い成長が予想される



※中国、香港、タイ、インドの経済成長率予測推移（前年比）
※2018、2019年はアジア開発銀行の予測値

出所) 図表1、2はアジア開発銀行のデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>